



第4章 現状と課題の整理



4-1 自転車利用の現状と課題

本市では、2014年（平成26年）3月に「ふじさわサイクルプラン」の当初計画を策定し、「はしる～走行空間整備～」「とめる～駐輪環境整備～」「つかう～利用促進～」「まもる～交通ルールの遵守～」の4つの基本方針に基づき自転車施策を展開してきましたが、自転車利用の現状と課題は次のとおりです。

■ 「通行空間整備」から見た現状と課題

現状等
<p>◇自転車通行空間に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度（令和2年度）に、施策の実効性をより高めるため、自転車通行空間整備についての実施スケジュールを示した「ふじさわサイクルプラン（藤沢市自転車活用推進計画）【実施計画】」を策定し、自転車通行空間の整備を進めています。 ・鉄道駅周辺の自転車通行空間整備は、藤沢駅及び辻堂駅周辺について、「鉄道駅周辺自転車走行空間整備計画」を策定しています。引き続き、他の自転車交通量が多い鉄道駅周辺（湘南台駅、長後駅）の整備計画の策定を検討しています。 ・「神奈川県自転車活用推進計画」では、自転車の活用を図るには、自転車通行空間の整備を進める必要があるとされています。 ・「自転車の走りやすさ」に関する満足度については、計画当初からは向上しているが、2022年度（令和4年度）に実施した交通に関する市民意識調査では、前年度に比べ低下がみられます。 <p>◇自転車事故に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全事故発生件数に占める自転車事故件数の割合に増加傾向が見られます。また人口1万人当たりの自転車事故件数は、2021年（令和3年）においては、県平均より高く7.05件となっています。

課題
<ul style="list-style-type: none"> ●安全で快適な自転車利用環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用者が、道路を安全で快適に通行するためには、自転車通行空間の整備を推進し、連続した自転車通行空間のネットワークを形成する必要があります。 ●鉄道駅周辺での自転車通行空間の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・特に自転車での移動が多い鉄道駅周辺において、歩行者との安全に、より着目した自転車通行空間の整備を進めていく必要があります。



■ 「駐輪環境整備」 から見た現状と課題

現状等
<p>◇駐輪環境の整備に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none">・2020年度（令和2年度）に、施策の実効性をより高めるため、駐輪環境整備についての実施スケジュールを示した「ふじさわサイクルプラン（藤沢市自転車活用推進計画）【実施計画】」を策定し、既存駐輪施設の機械化などを進めています。・当初計画で定めた駐輪環境整備に関する評価指標のうち、「自転車駐車場所に関する満足度」については、目標値である「満足度の向上」が図れていません。・「自転車の駐輪施設の場所や設備」は、「交通に関する市民意識調査」の結果では、他の項目に比べ満足度が低く、かつ低下しています。・2022年度（令和4年度）に実施した交通に関する市民意識調査の結果では駐輪場の不満の要因として、「駐輪場が足りていない」といった駅周辺の駐輪環境への不満がみられます。・近年の電動アシスト自転車や幼児2人同乗用自転車の普及から、幅が広く重量も大きい自転車の駐輪に関する不満がみられます。

課題
<ul style="list-style-type: none">●官民連携した駅周辺等での駐輪環境の整備<ul style="list-style-type: none">・鉄道駅までの移動や鉄道駅周辺を目的地とする際に安心して利用できる駐輪環境を、官民が連携して整備していく必要があります。●駐輪場の質の向上<ul style="list-style-type: none">・電動アシスト自転車や幼児2人同乗用自転車の普及に伴い、幅が広く重量も大きい自転車でも止めやすいなど、駐輪環境の質の向上が求められています。



■ 「利用促進」 から見た現状と課題

現状等
<p>◇自転車の利用促進に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none">・2021年（令和3年）5月に、太平洋岸自転車道がナショナルサイクルルートに指定されています。・本市では、湘南地域の自転車を活用した周遊観光の促進のため、本市を含む湘南地域の4市3町が連携し、シェアサイクルの実証実験事業を実施しています。・「神奈川県自転車活用推進計画」では、自転車活用を通じた未病改善の推進や、観光・サイクリングスポーツの振興による地域の活性化などを目標に定めています。・「藤沢市地域防災計画」において、災害時における広報・情報提供ツールとして、自転車の活用が位置付けられています。
課題
<ul style="list-style-type: none">●自転車の利用促進による自転車のメリットの活用<ul style="list-style-type: none">・自転車の利用には「環境負荷の低減」、「渋滞の緩和」、「健康の増進」、「災害時の移動手段確保」に繋がるなど様々なメリットがあることから、自転車の利用を促進することが望まれます。●観光や健康づくりへの活用<ul style="list-style-type: none">・サイクルツーリズムの推進や自転車活用を通じた未病改善など、市民の健康・幸福につながる新たな自転車施策について、検討する必要があります。



■ 「交通ルールの遵守」 から見た現状と課題

現状等
<p>◇自転車事故に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全事故発生件数に占める自転車事故件数の割合に増加傾向が見られます。また人口 1 万人当たりの自転車事故件数は、2021 年（令和 3 年）においては、県平均より高く 7.05 件となっています。・ 自転車事故の多くは交差点で発生しており、全体の約 7 割を占めています。・ 事故にあった自転車利用者の年齢に着目すると、自転車事故は若い世代の占める割合が高くなっています。・ 自転車利用者の年齢階層をみると、男性は 15～19 歳及び 70 歳代以上、女性は 30～40 歳代の利用が多くみられます。・ コロナ禍前は毎年 2 万人以上を対象に交通安全教室を実施してきましたが、コロナ禍において受講者数は減少しています。 <p>◇道路交通法の改正や社会状況の変化に応じた対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 改正道路交通法の施行により、すべての自転車利用者の乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。・ 神奈川県では、自転車の安全適正利用のための取組や自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした条例を制定しました。

課題
<ul style="list-style-type: none">●自転車事故の削減<ul style="list-style-type: none">・ 自転車に関する交通ルールの遵守及びマナーの向上に向け、引き続き安全啓発活動等を推進していく必要があります。●自転車利用や自転車事故が多い世代への安全啓発<ul style="list-style-type: none">・ 自転車事故の削減のためには、より多くの市民等に自転車利用に関するルール等を周知するなど、安全啓発活動等を推進する必要があります。・ 特に自転車利用者が多い年齢階層や自転車事故が多い年齢階層に向け、安全啓発活動等を行っていく必要があります。●ヘルメットの着用や、自転車損害賠償責任保険等の加入促進<ul style="list-style-type: none">・ ヘルメット着用の促進（努力義務）や自転車損害賠償責任保険等への加入の促進など、道路交通法の改正への対応や社会状況の変化に応じた安全啓発活動等を推進していく必要があります。